

# 「大学IRコンソーシアムで可視化 できること、できないこと」

大阪府立大学学長補佐

大学IRコンソーシアムIRシステム運用部会長  
高橋 哲也

2016.2.22 AP合同フォーラム@玉川大学



# 概要

- 大学 I R コンソーシアムの概要
  - コンソーシアム設立まで
  - コンソーシアムの現状
  - I R システム
- コンソーシアムの調査の特徴
- コンソーシアムの活用

# 取組名称：相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出 —国公立4大学IRネットワーク 構成大学：同志社大学(代表校)、北海道大学、大阪府立大学、甲南大学

本取組では、**国公立4大学の連携により**、学生調査分析を軸とする**IR機能**の開発を基盤として、IRを通じた連携大学間での**相互評価の結果を学士課程教育の質的向上に結びつける質保証システムの創出**と**全国規模のIRコミュニティの育成**を目指す。

## 連携取組の内容

- ・4大学IR学生調査ネットワークの構築と活用
- ・連携大学間におけるIRネットワークシステムの構築
- ・IRネットワークを活用した相互評価とベンチマーキング
- ・IR人材育成のためのワークショップ事業

## 期待される効果

- ・設置形態の相違を超えた国公立大学の連携による、学士課程教育の質保証に向けた新たなモデルの構築
- ・学生調査に基づくIRの展開により、4大学それぞれの長所・短所を把握、さらにPDCAサイクルの常態化による短所の改善と長所の更なる伸長
- ・IRのノウハウの共有化によるIR人材育成と日本版IRモデルの構築
- ・英語科目のナンバリング制の実施による、汎用性のある英語ベンチマークの設定



# 連携事業の内容

- 共通の学生調査（1年生、上級生）の開発と実施
- 大学間を超えて相互評価可能なシステムの開発（IRシステム）
- 大学IRコンソーシアムと大学間連携共同教育推進事業「教学評価体制（IRネットワーク）による学士課程教育の質保証」（平成24年度～平成28年度）へ展開

# 大学 I R コンソーシアム発足

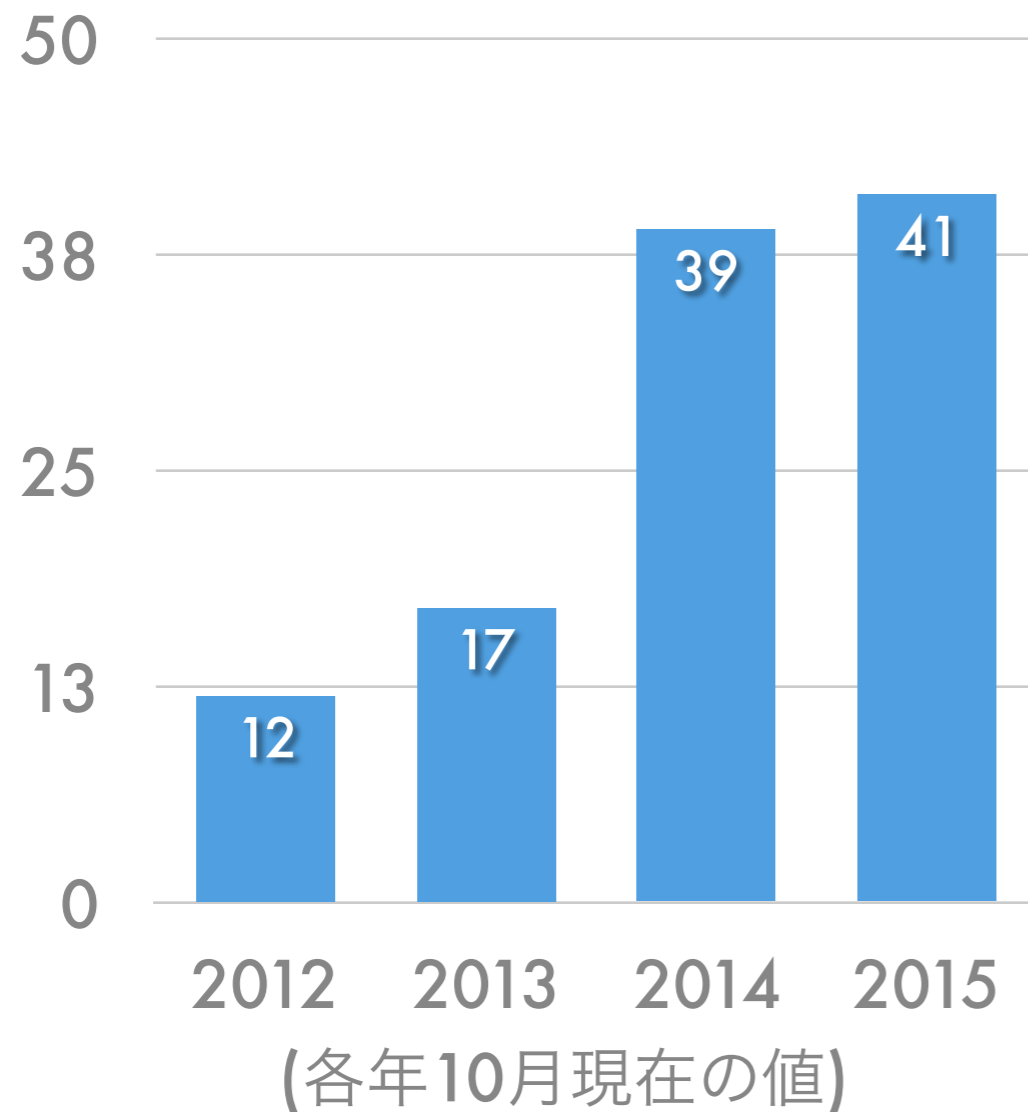
- 上記事業の補助期間終了後、大学 I R コンソーシアムを設立（2012年9月）
- 共通の学生調査と教務データとを統合したデータをシステム上で共有し大学間を超えた質保証を目指す
- クラウド型データベース(IRiS)の利用により相互評価もウェブ上で可能
- 当初は8大学でスタート

# コンソーシアムの役割

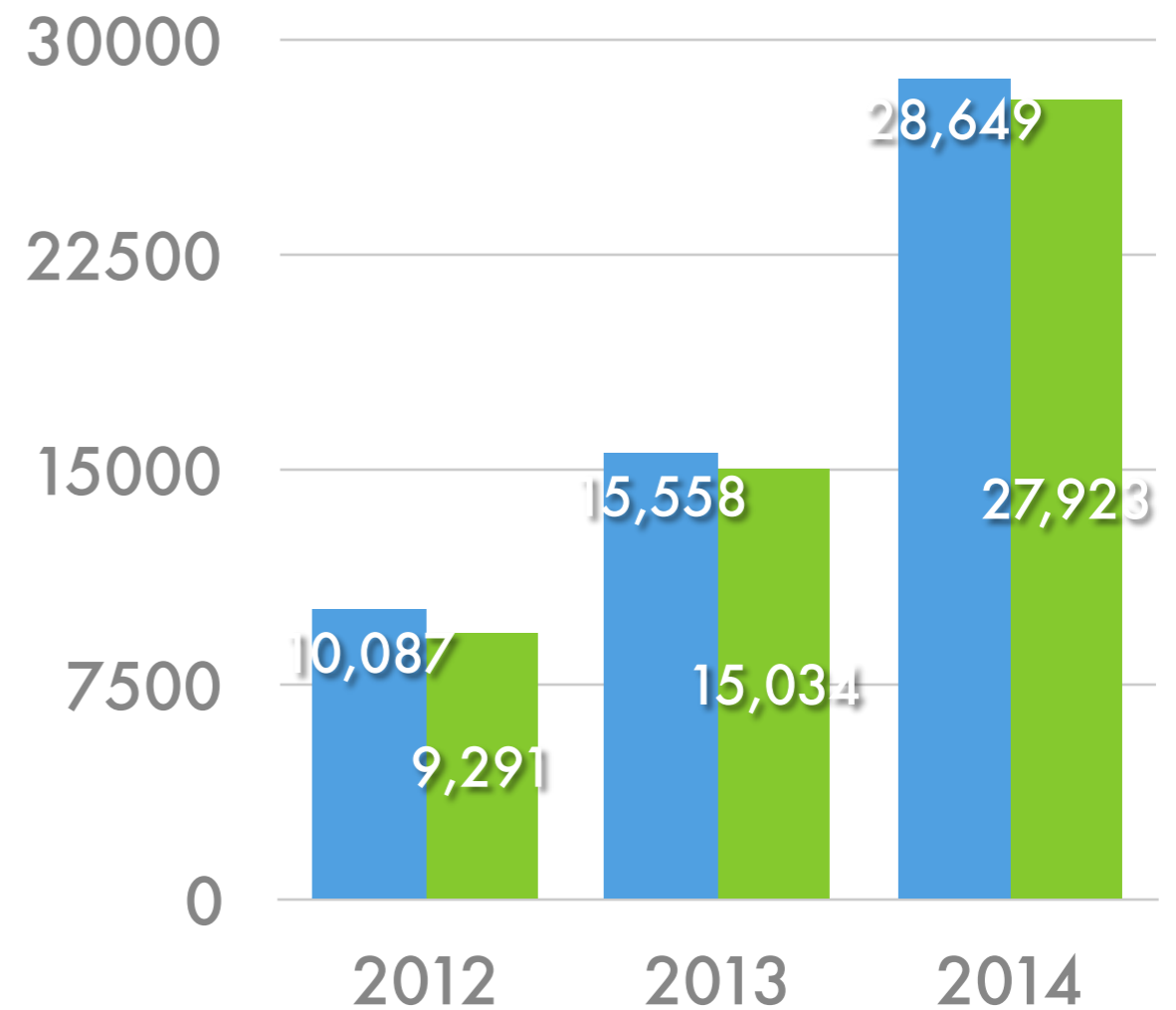
- 共通の学生調査を実施し、日本の高等教育機関のある種のベンチマークを作成すること
- 共通データを用いた相互評価により、各大学の特徴をデータから示すことを可能とすること
- 上記の機能を可能とするシステムの提供と運用
- 大学におけるIR人材の育成、コンソーシアムが所有するビッグデータの分析によるIR研究を大学間の自発的な取組として進展

# コンソーシアムの推移

コンソーシアム参加校数



学生調査参加者数



内訳：国立 7 公立 5 私立 29 (2015.10現在)

# 学生調査の内容

- 参加大学間共通の調査項目
- 国内外の調査研究を参考にした学生調査

- 日本版大学生調査 JCIRP

Japanese Cooperative Institutional Research Program

大学の教育や設備、学生支援制度等さまざまな側面に対する満足度、獲得した能力・スキル、大学での経験、学習行動、学習時間等、情緒的や認知的側面を重視した標準調査。

- ヨーロッパ言語共通参照枠組み CEFR

Common European Framework of Reference for Languages

外国語教育のガイドラインとして、EU諸国内で開発・導入。聞く、読む、話す、表現、書くの5技能について学習者の外国語到達度（レベル）を、「～ができる（can do）」を用いた能力記述文で測定。この尺度は、どの言語にも共通して適用でき、汎用性がある。



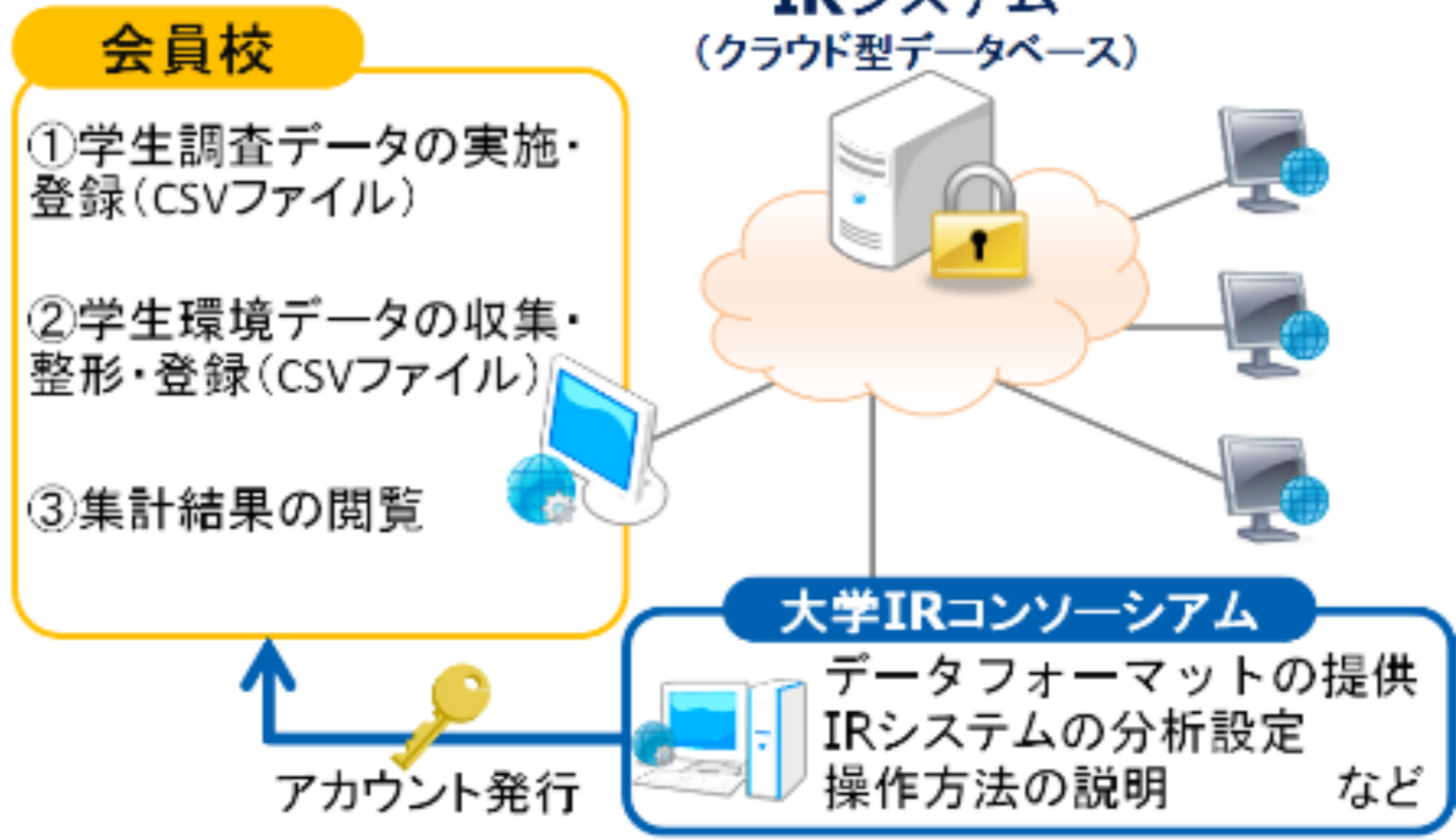
# 学生調査の種類

調査名	① 「一年生調査」	② 「上級生調査」
対象学年	1年生	2～4年生
主要調査項目	<ul style="list-style-type: none"><li>・学籍番号、プロフィール</li><li>・授業経験</li><li>・学習行動、受講態度</li><li>・正課内外の活動時間</li><li>・知識・能力の獲得状況</li><li>・英語運用能力のレベル</li><li>・大学生活、大学教育に対する満足感</li><li>・入学前の学習経験</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学籍番号、プロフィール</li><li>・授業経験</li><li>・学習態度、受講態度</li><li>・正課内外の活動時間</li><li>・知識・能力の獲得状況</li><li>・英語運用能力のレベル</li><li>・大学生活、大学教育に対する満足感</li></ul>

# IRシステムの概要

# IRシステムとは

- クラウド型データベース
- 現在は、大学IRコンソーシアムが所有
- 各参加校は「学生調査データ」「学生環境データ」をアップロード
- IRシステムで集計し、集計結果をグラフ表示（グラフは9種類）



大学IRコンソーシアムウェブサイト  
<http://www.irnw.jp/irsystem.html>

より引用

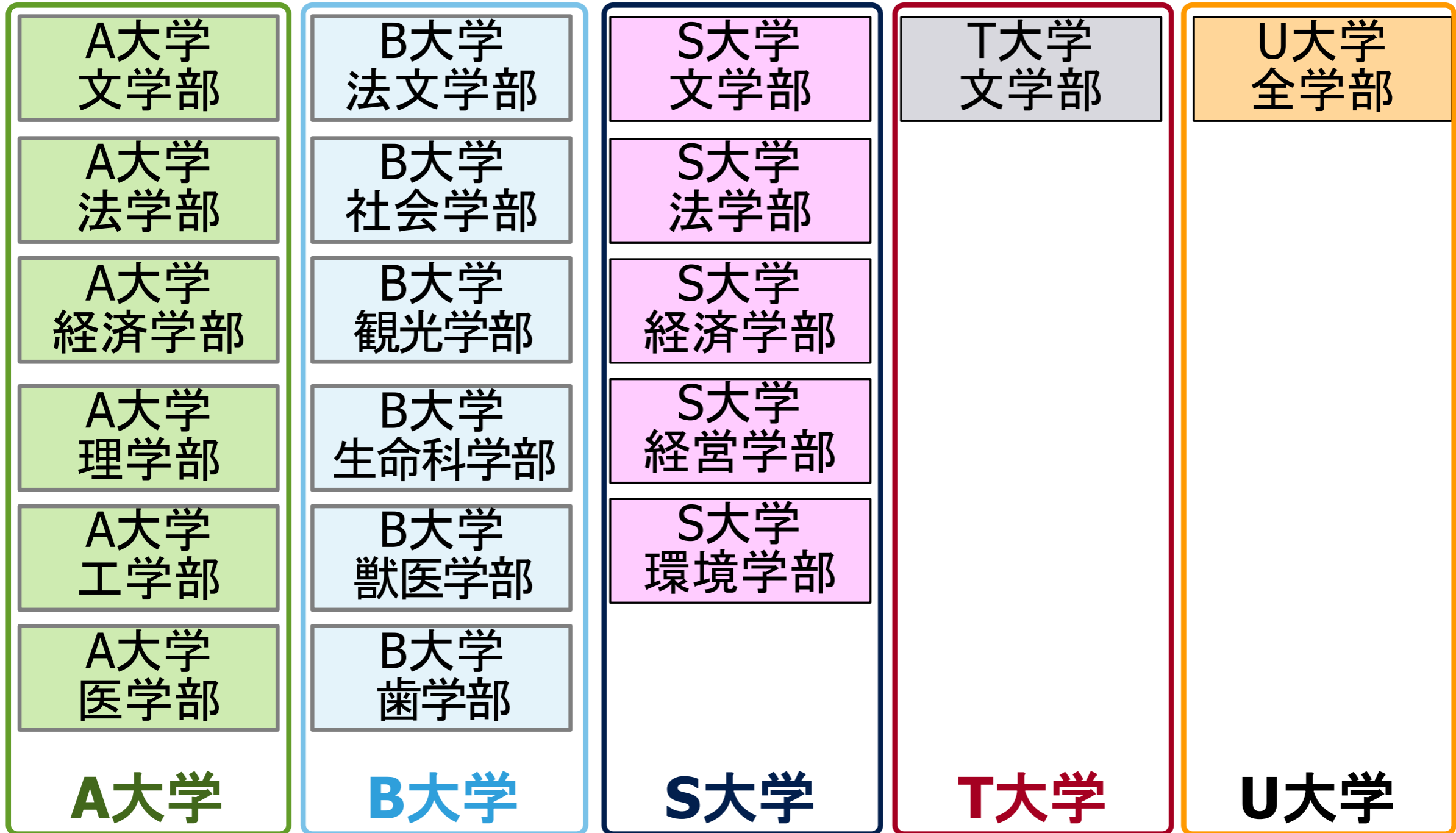
# 集計結果表示機能

- 単純集計
- クロス集計・相関係数
- グループ別の平均値
- 設問同士の比較
- 同一個人の変化
- 全大学の結果についてはほとんど公開

# 専門分野別サブグループ

- これまでは機関調査として大学単位での登録だったのを学部単位での登録に変更（大学単位でも可）
- サブグループを従来のサブグループに加えて「大学サブグループ」「専門分野別サブグループ」を追加し、専門分野別の集計が可能になった

# ①一大学内の各学部をグループ化



## ②大学の特徴に基づくグループ

A大学  
文学部

B大学  
法文学部

A大学  
法学部

B大学  
社会学部

A大学  
経済学部

B大学  
観光学部

A大学  
理学部

B大学  
生命科学部

A大学  
工学部

B大学  
獣医学部

A大学  
医学部

B大学  
歯学部

国公立大学グループ

S大学  
文学部

T大学  
文学部

U大学  
全学部

S大学  
法学部

S大学  
経済学部

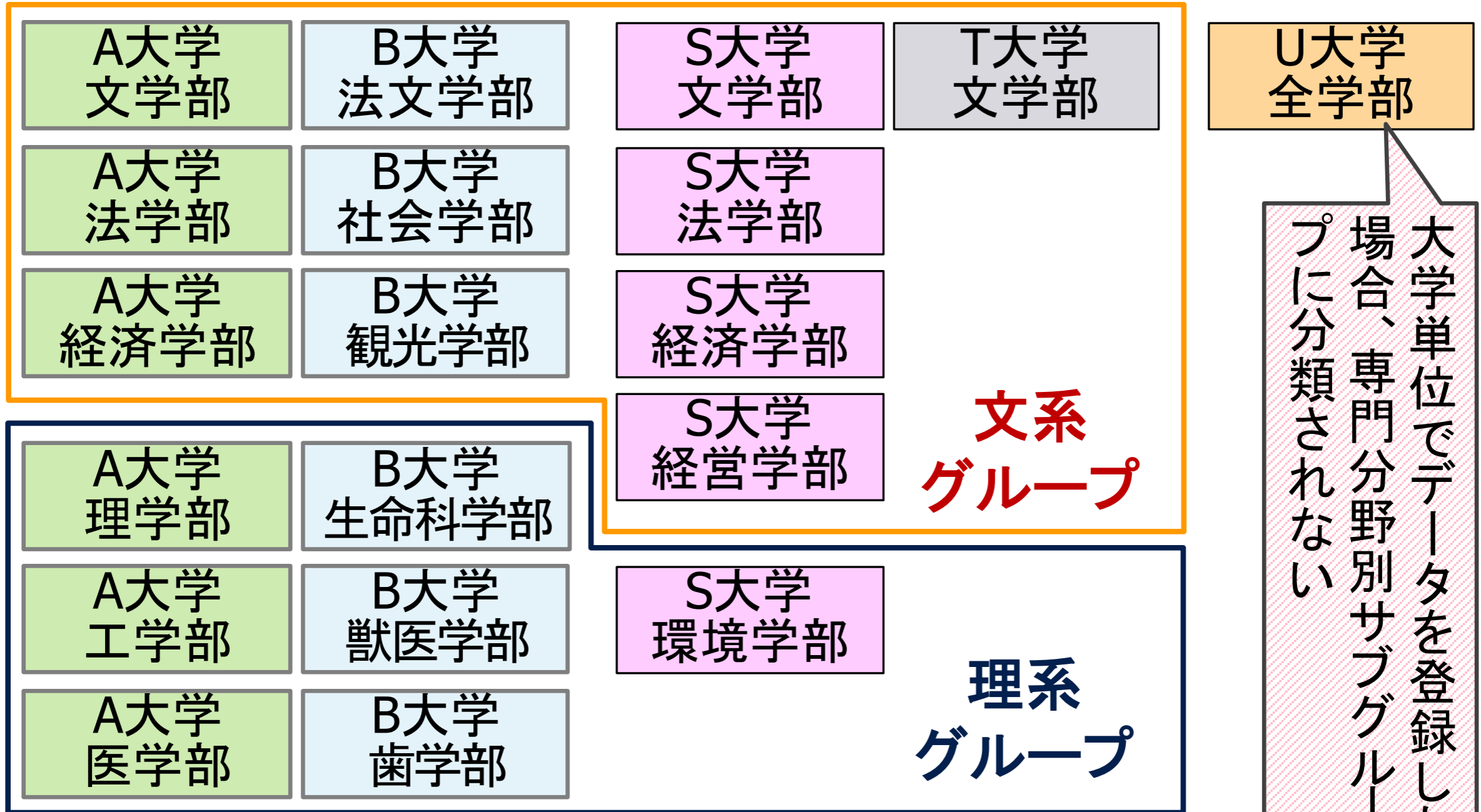
S大学  
経営学部

S大学  
環境学部

私立大学グループ




# ③専門分野に基づくグループ



大学単位でデータを登録した場合、専門分野別サブグループに分類されない

# IRシステム画面例

 [問9B]週あたりの活動時間：授業時間以外に、授業課題や準備学習、復習をする

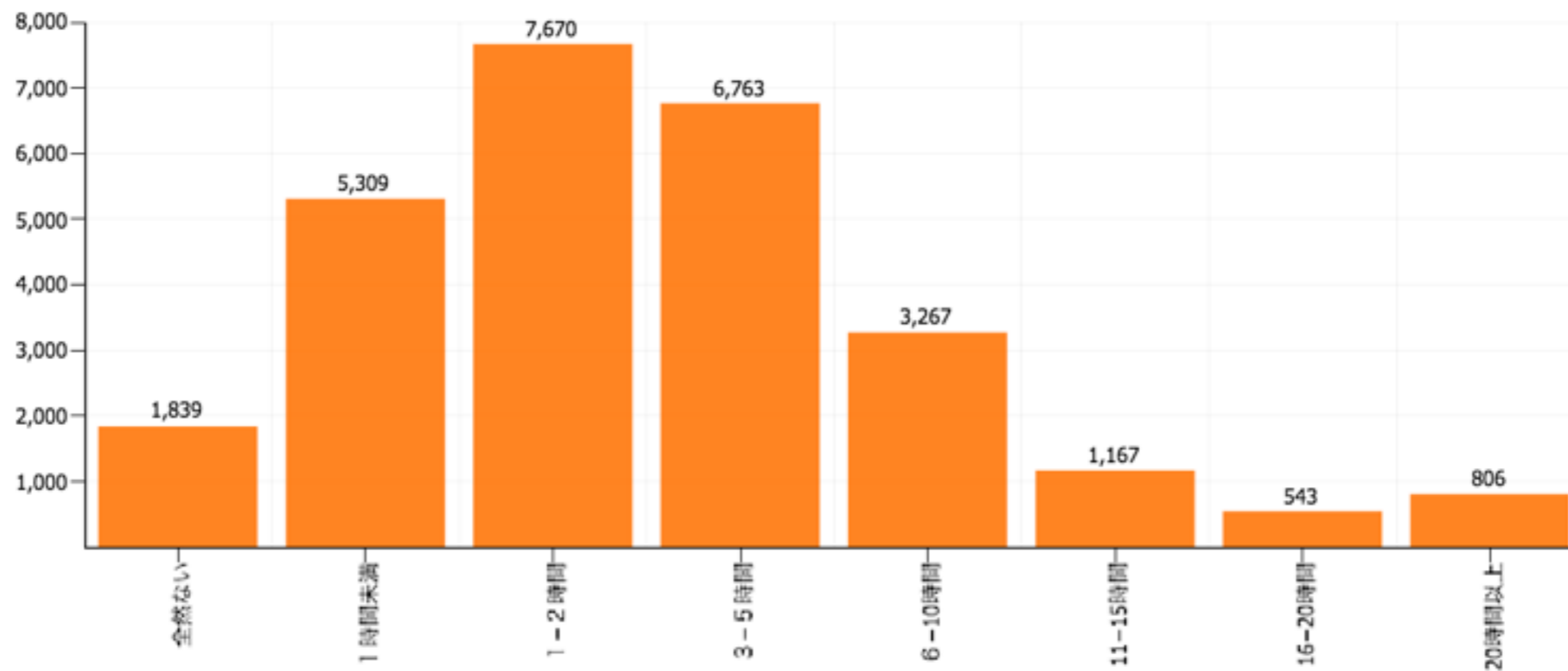
 相互評価を行う

表示対象

全大学


確定

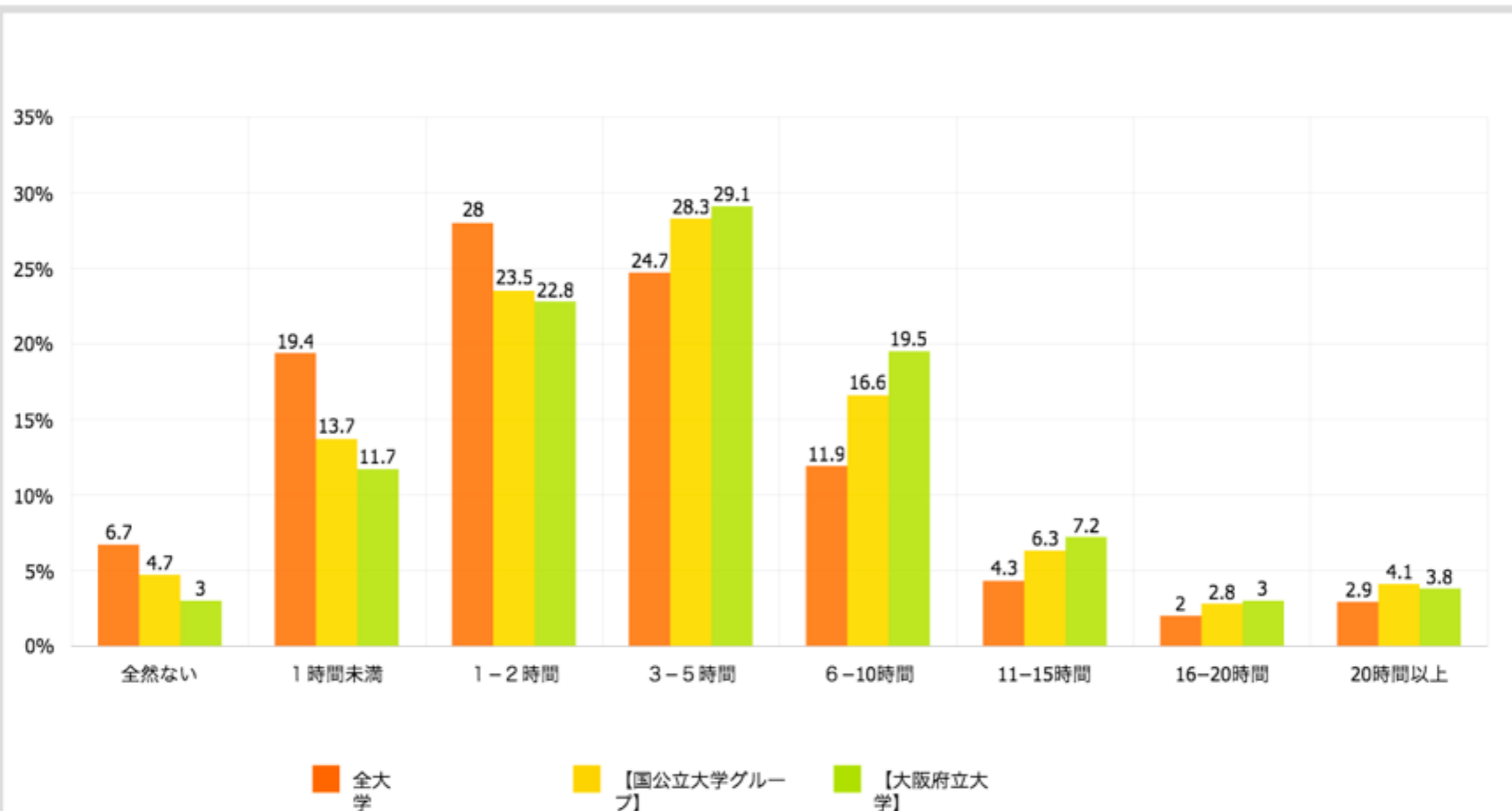
[問9B]週あたりの活動時間：授業時間以外に、授業課題や準備学習、復習をする




相互評価 調査票：上級生調査2014年

[▲ 基礎集計結果に戻る](#)

 [問9B]週あたりの活動時間：授業時間以外に、授業課題や準備学習、復習をする



 [問9B]週あたりに授業時間以外に、授業課題や準備学習、復習をする時間と累積評価値（GPA）のクロス表 【調査参加校のみ閲覧可】

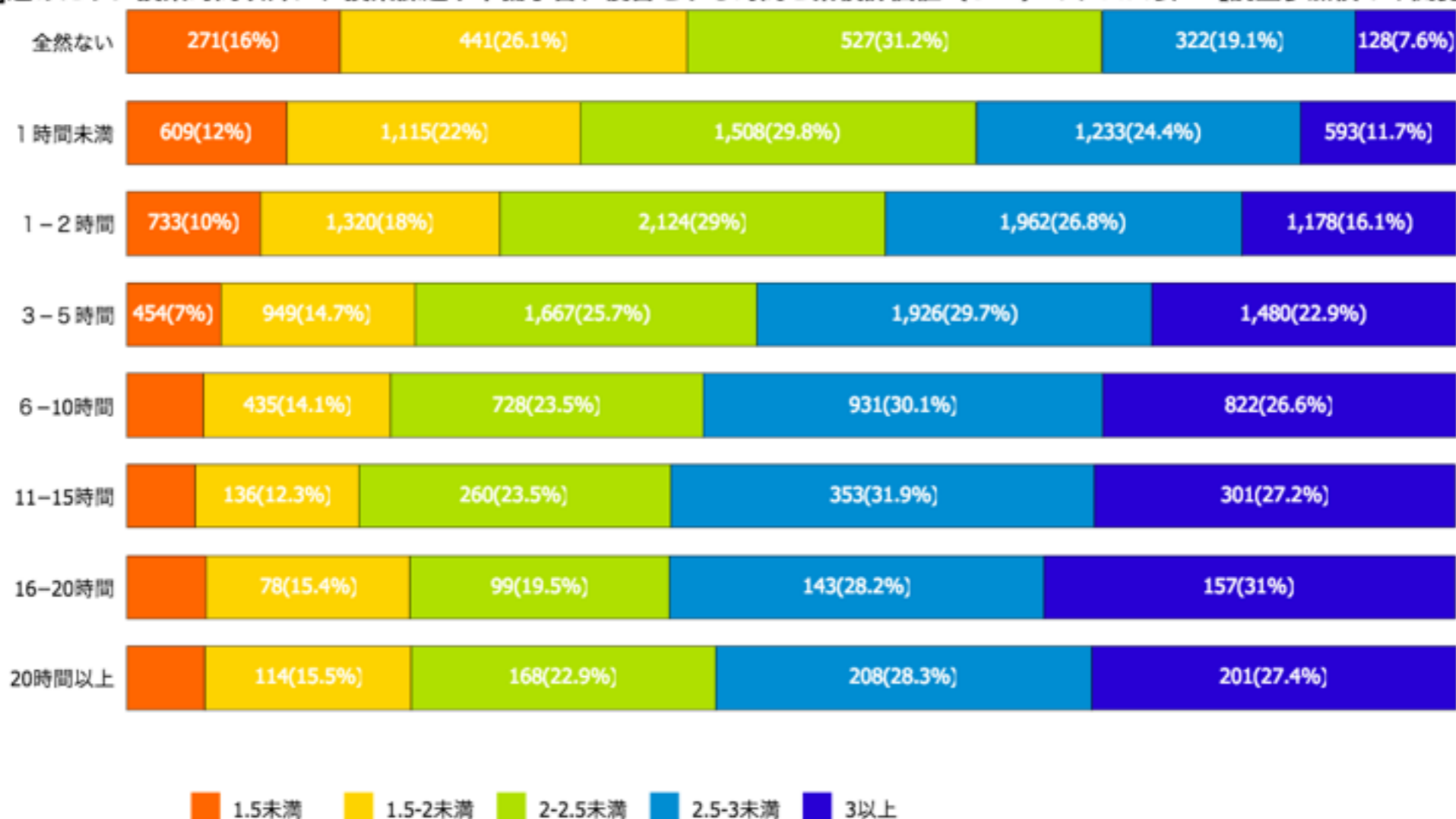
表示対象

全大学



確定

[問9B]週あたりに授業時間以外に、授業課題や準備学習、復習をする時間と累積評価値（GPA）のクロス表 【調査参加校のみ閲覧可】



## 統計量

度数	有効件数	25,982
	欠損値	1,941
ケンドールの順位相関係数		0.163
スピアマンの順位相関係数		0.202

## 集計結果

行変数（表側の集計項目）	[教]累積評価値（GPA） のグループ集計
列変数（表頭の集計項目）	[問9B]週あたりの活動時間：授業時間以外に、授業課題や準備学習、復習をする

No	1		2		3		4		5		6		7		8	
	全然ない		1時間未満		1-2時間		3-5時間		6-10時間		11-15時間		16-20時間		20時間以上	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1.5未満	271	16.0	609	12.0	733	10.0	454	7.0	178	5.8	57	5.1	30	5.9	43	5.9
1.5-2未満	441	26.1	1,115	22.0	1,320	18.0	949	14.7	435	14.1	136	12.3	78	15.4	114	15.5
2-2.5未満	527	31.2	1,508	29.8	2,124	29.0	1,667	25.7	728	23.5	260	23.5	99	19.5	168	22.9
2.5-3未満	322	19.1	1,233	24.4	1,962	26.8	1,926	29.7	931	30.1	353	31.9	143	28.2	208	28.3
3以上	128	7.6	593	11.7	1,178	16.1	1,480	22.9	822	26.6	301	27.2	157	31.0	201	27.4
	1,689	100.0	5,058	100.0	7,317	100.0	6,476	100.0	3,094	100.0	1,107	100.0	507	100.0	734	100.0

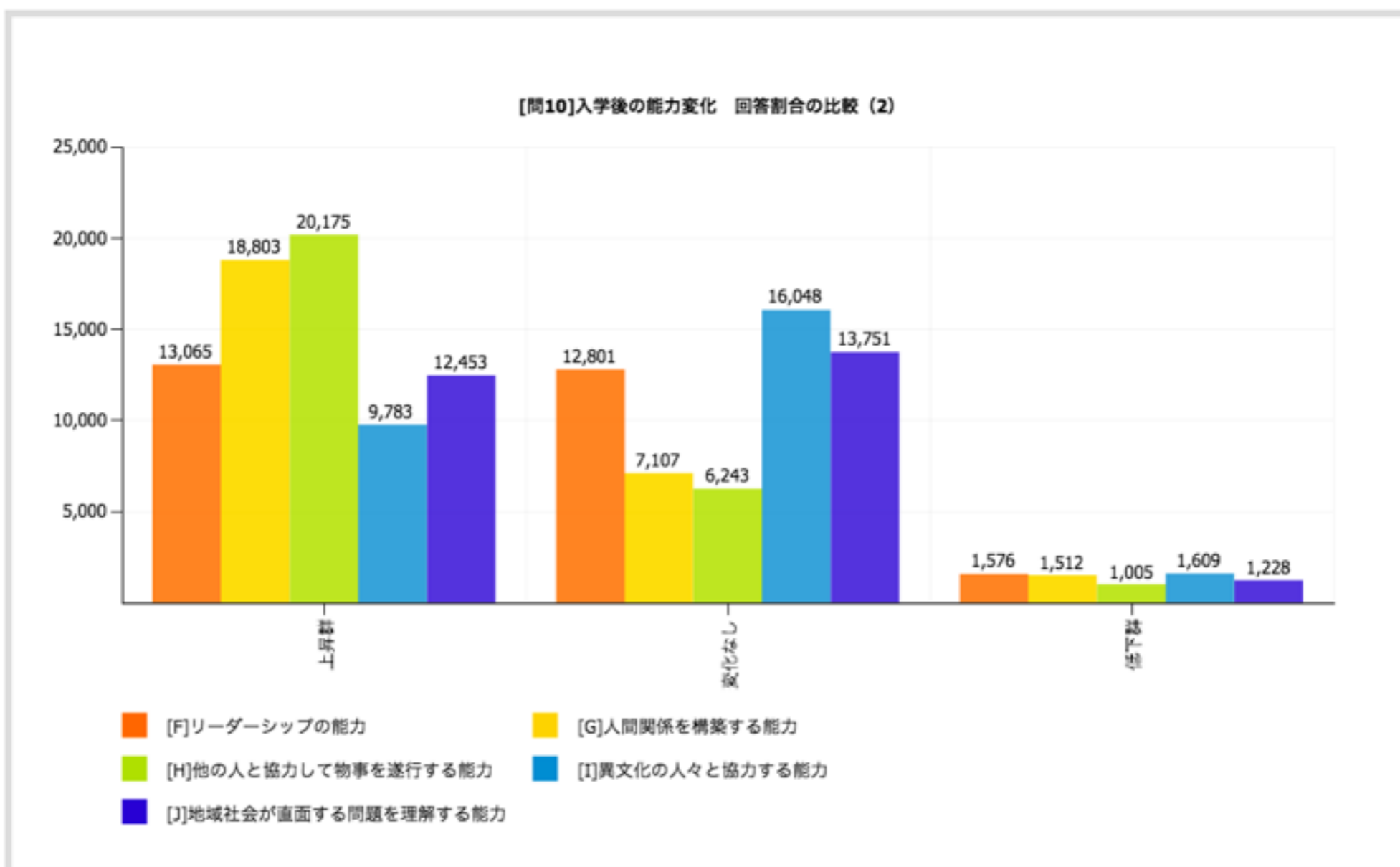
 CSV形式でダウンロードする

基礎集計結果 調査票：上級生調査2014年

▲ 検索結果一覧に戻る ◀ 前に戻る ▶ 次に進む ▶

[問10]入学後の能力変化 回答割合の比較 (2)

表示対象  確定



棒グラフ(縦)

棒グラフ(横)

積上棒グラフ(縦)

積上棒グラフ(横)

レーダーチャート

# [問10]入学後の能力変化 回答割合の比較 (2)

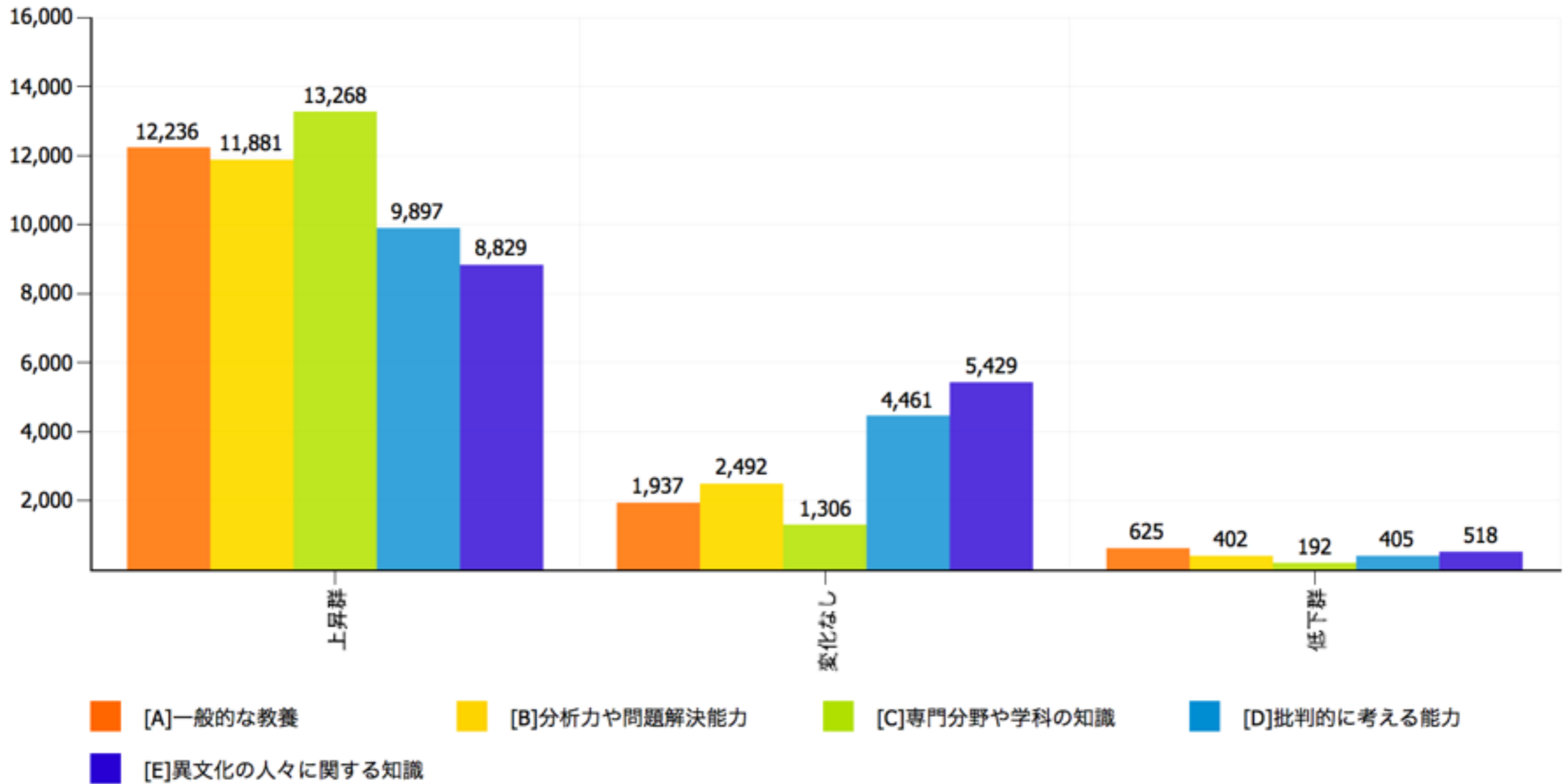
表示対象

全大学



確定


[問10]入学後の能力変化 回答割合の比較 (1)



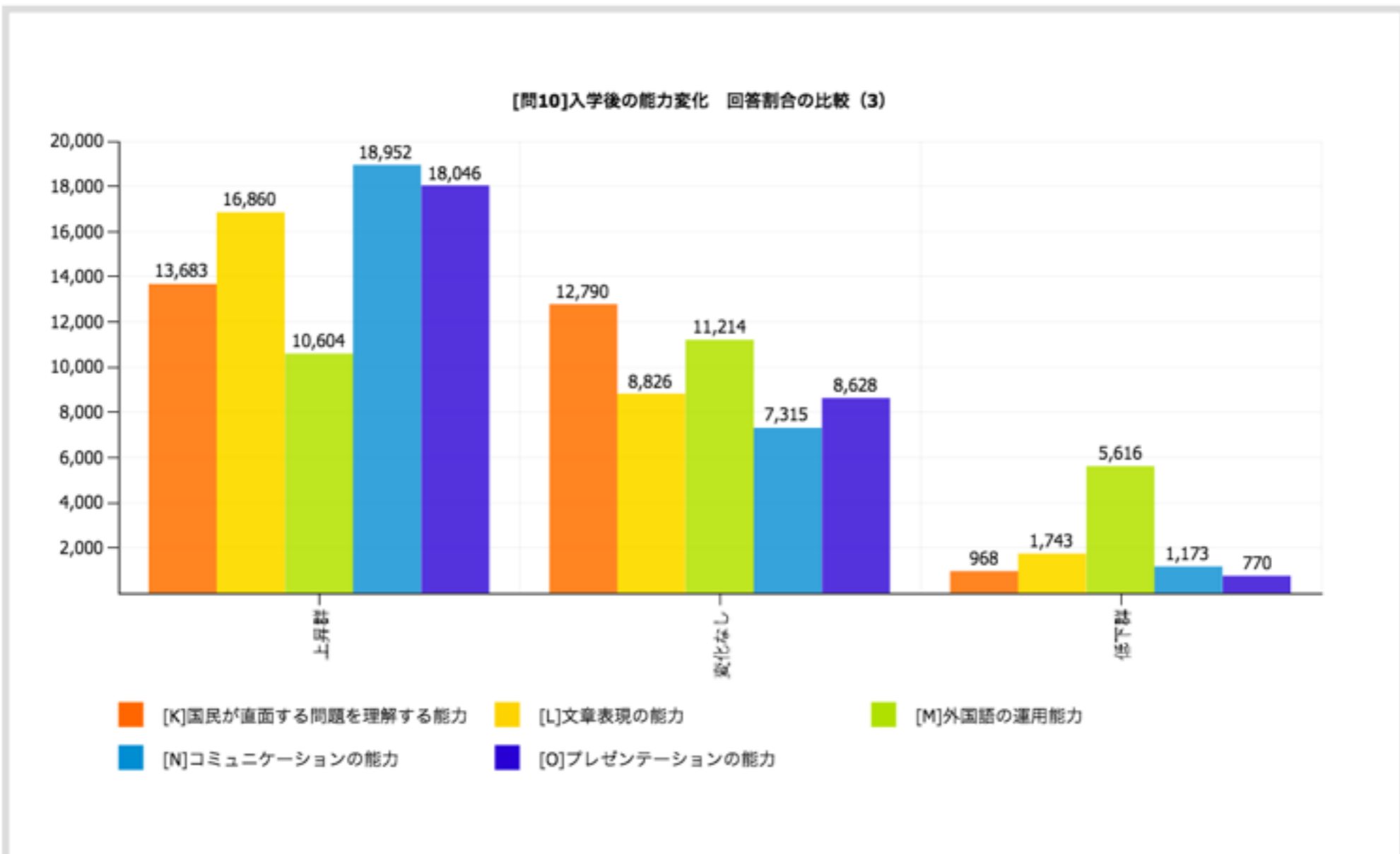


基礎集計結果 調査票：上級生調査2014年

▲ 検索結果一覧に戻る ◀ 前に戻る ▶ 次に進む ▶

 [問10]入学後の能力変化 回答割合の比較 (3)

表示対象  確定



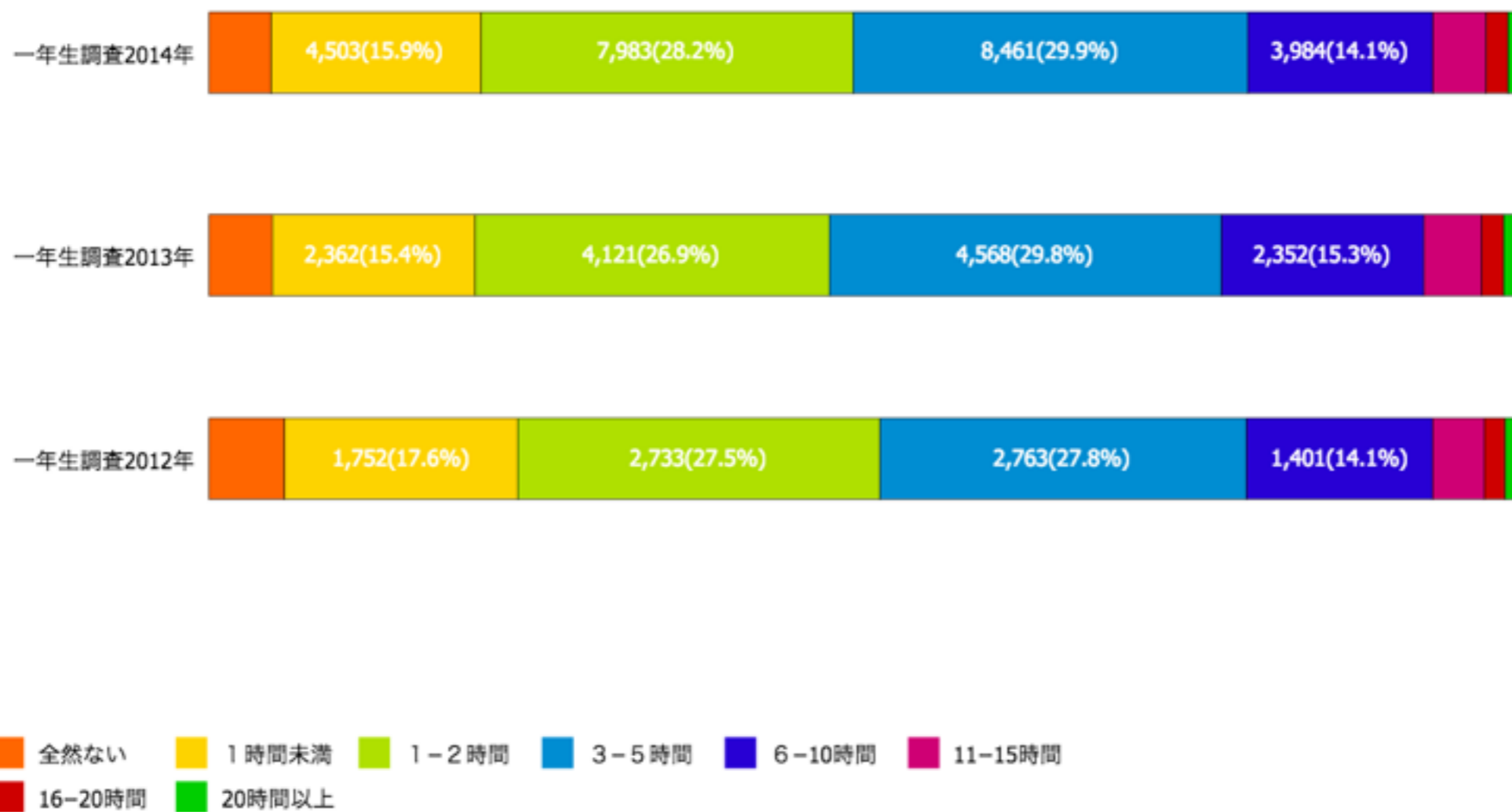
棒グラフ(縦)   
  棒グラフ(横)   
  積上棒グラフ(縦)   
  積上棒グラフ(横)   
  レーダーチャート

表示対象

全大学

確定

経年比較： [問9B]週あたりの活動時間：授業時間以外に、授業課題や準備学習、復習をする



積上  
棒グラフ(横)

# コンソーシアムの特徴

- ベンチマークとしての利用可能（規模のメリット）
- マクロデータとしての信頼性（継続的な大規模調査）
- 2地点のパネル調査での同一集団の変化の把握
- 大学が教育の質保証のために実施（単なる調査とは異なる）
- GPA等の大学の教務情報のデータも同時に収集
- 大学の自主的な取組である
- 大学（学部）の特徴を見つけることが可能
- 一方、学生調査は主観的な自己評価であり、個人の評価に使うのは無理。個人の学修成果の検証にはアセスメントテスト等の直接評価も必要

# コンソーシアムの活用事例

# 自己点検・評価報告書への活用

- コンソーシアムの学生調査の認証評価の自己評価書への活用事例

1つ目は・・・

学生の自己評価を自大学内のデータのみで説明する

2つ目は・・・

学生の自己評価を他大学の集計結果と対比する

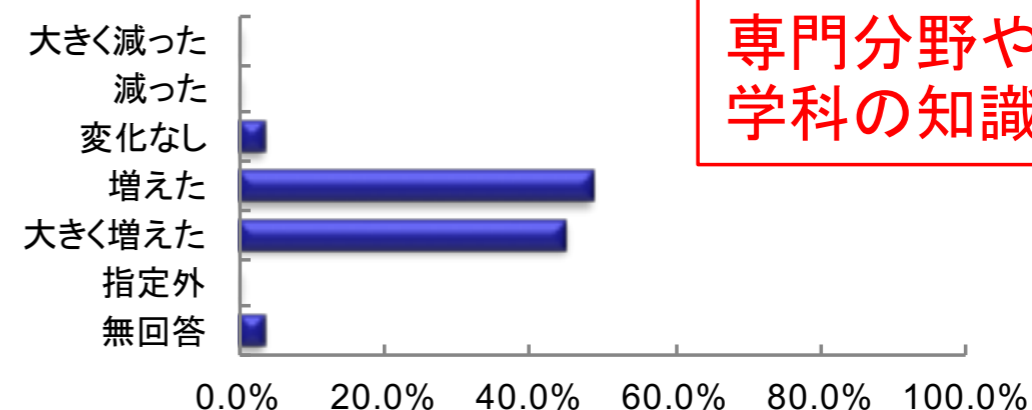
# 自己点検・評価報告書への活用

## A学部（生命・化学系）

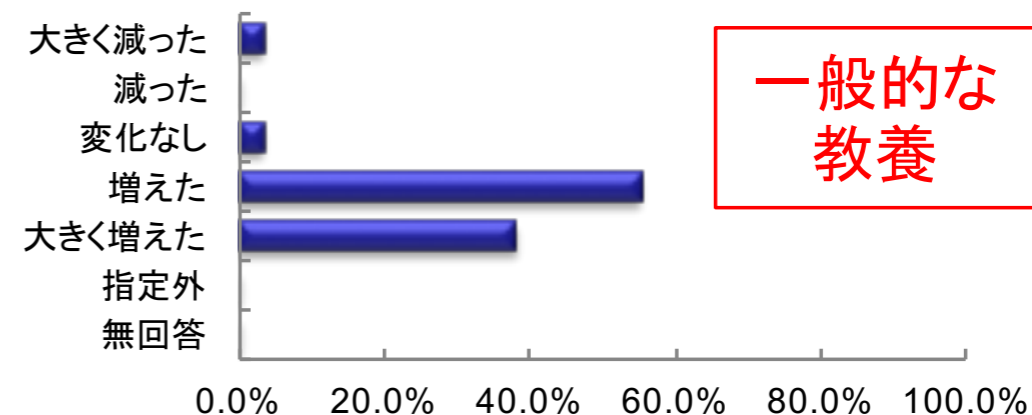
育成目標：教育・研究対象の中心に「生命化学」を据え、徹底した少人数教育によりバイオテクノロジー、ナノテクノロジー、それらの融合領域ナノバイオに関する知識と技能を修得させることにより、先端科学技術を社会の発展・福祉の増進に生かすことのできる専門性をもった職業人の養成をめざす

入学後に増加した能力：専門分野や学科の知識、一般的な教養、分析力や問題解決能力などとなっている。

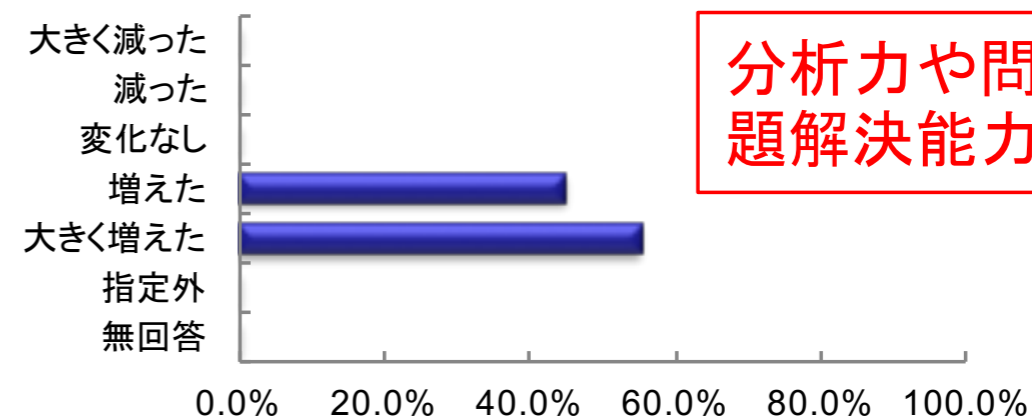
(2011年度3年次生調査結果)



専門分野や  
学科の知識



一般的な  
教養



分析力や問  
題解決能力

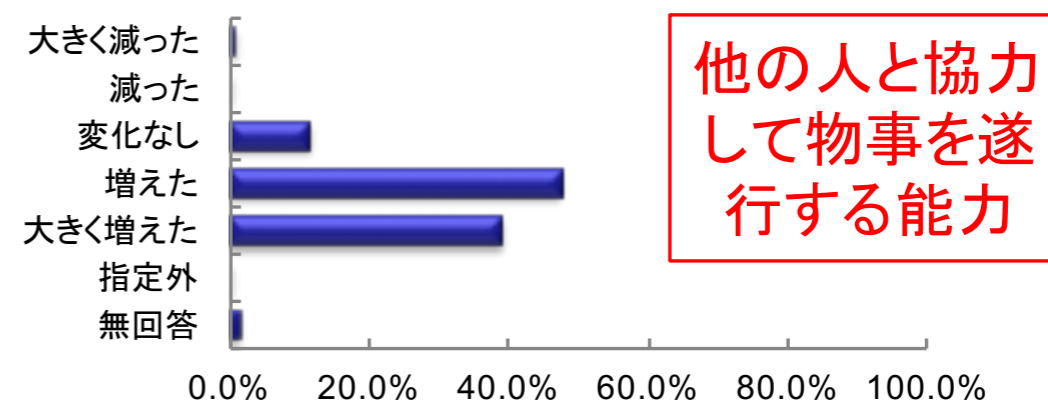
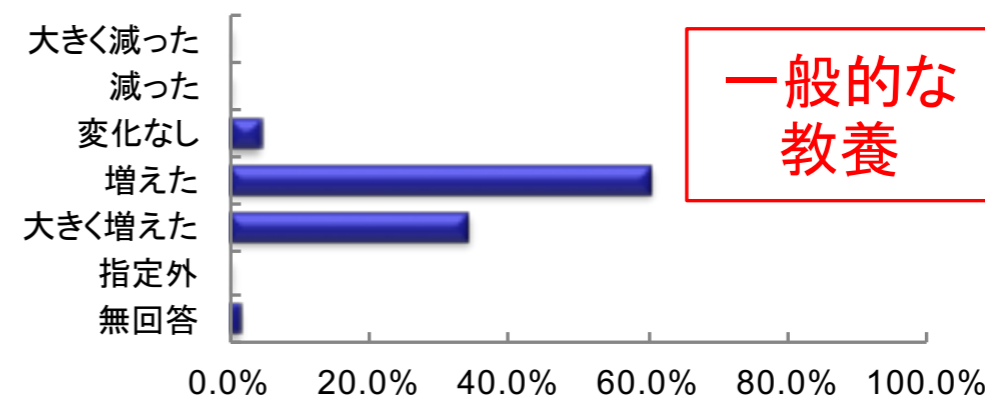
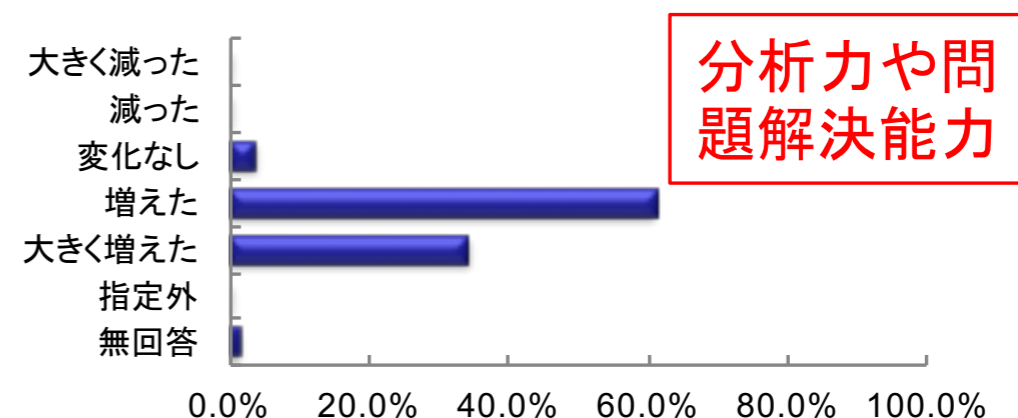
# 自己点検・評価報告書への活用

## B学部（経済・経営・教養の学際系）

育成目標：教養と品格を備え、総合的マネジメント能力を有し、社会に貢献できる人材の養成をめざす

入学後に増加した能力：分析力や問題解決能力、一般的な教養、他の人と協力して物事を遂行する能力などとなっている。

（2011年度3年次生調査結果）



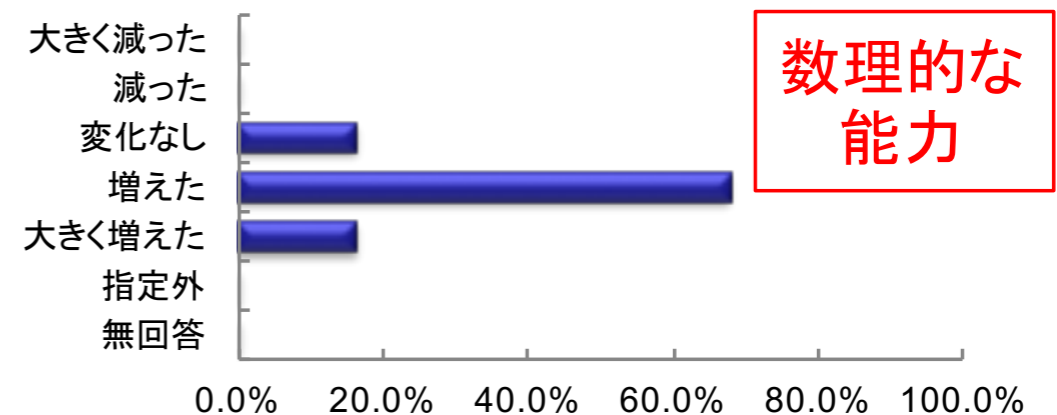
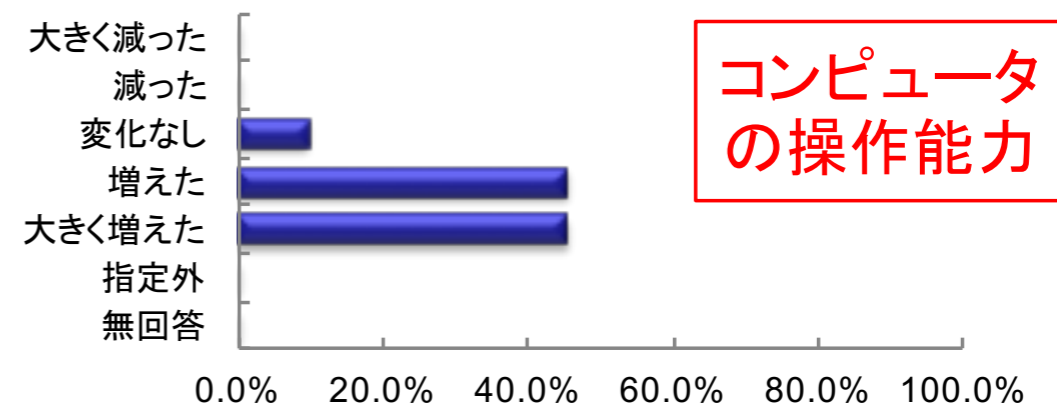
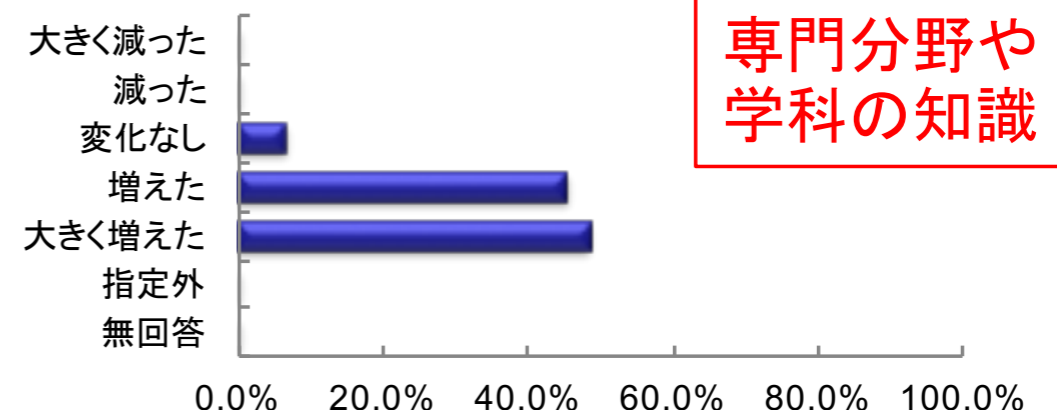
# 自己点検・評価報告書への活用

## C学部（情報系）

育成目標：人間力をベースに感性・知性で高度国際情報社会におけるリーダーシップがとれる人材の育成

入学後に増加した能力：専門分野や学科の知識、コンピュータの操作能力、数理的な能力などとなっている。

(2011年度3年次生調査結果)





# 自己点検・評価報告書への活用

